

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	北九州市立松ヶ江南小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	23
児童数	73	68	61	78	76	67		423	

研究の概要

1. 研究主題

<p>確かな学力を育てる学習指導法の研究 ~ 指導と評価の一体化を通して ~</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1年生・2年生 ... 国語 国語は各学習の基本だと考えているので、一番早い時期にその基礎を固めたいと考えた。</p> <p>3年生・4年生 ... 算数 算数は、児童・保護者にとって非常に気になる教科であり、高学年になるほど差も開いてくる。中学年は算数の要の時期だと考えているので、高学年で差が開いてくる前に、基礎基本の定着を図りたい。</p> <p>5年生・6年生 ... 理科 理科は、自然事象の原理・法則を発見していくという筋道を立てた思考方法が大切である。その中心は高学年が中心になると考えた。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>確かな学力を育てる学習指導法の研究 ~ 指導と評価の一体化を通して ~ <仮説> 評価を指導に生かしていくための工夫を図りながら、児童の習熟の程度に応じたり、課題の違いに応じたりした少人数授業等を展開すれば、児童一人一人に確かな学力の定着を図ることができるだろう。 指導と評価の一体化を図る取組 毎時間ごとにきめ細かな評価を行い、児童一人一人の学習到達度を正確に把握する。それを、その時間の後半や次時の学習に生かし、児童一人一人の実態により即した指導を行う。 学習形態の工夫 児童の習熟の程度に応じたり、課題の違いに応じた学習をしていくために、学習形態を工夫し効果的な指導を行う。本校に加配されている少人数等きめ細かな指導教員と児童生徒支援加配教員を有効に活用する。 朝自習の取組 児童に学習の基礎となる学習習慣を身に付けさせることと、基礎・基本の確実な定着を図るために、スキル学習の時間を確保し、系統的に基礎・基本の定着を図る。</p>
--------	---

平成15年度	<p>確かな学力を育てる学習指導法の研究 ~ 指導と評価の一体化を通して ~ <仮説> 目標に準拠した評価を通して一人一人の児童の学習状況を的確に把握し、学習形態、それに合わせた教材・教具、スキル学習など個に応じた指導の充実を図ることによって、[確かな学力]を育てることができよう。 指導と評価の一体化を図る取組</p>
--------	--

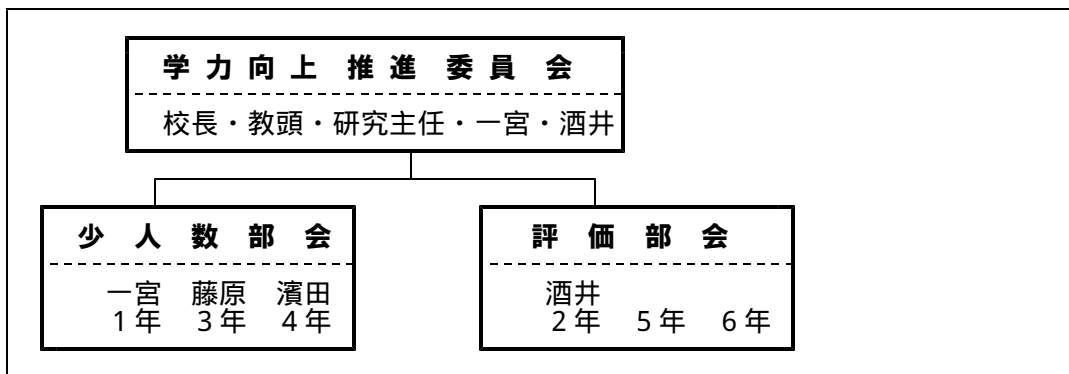
毎時間ごとにきめ細かな評価を行い、児童一人一人の学習到達度を正確に把握する。それを、その時間の後半や次時の学習に生かし、児童一人一人の実態により即した指導を行う。

学習形態の工夫
児童の状況や教材に合わせて学習形態を工夫し、それに合わせた教材開発も行う。

朝自習の取組
児童に学習の基礎となる学習習慣を身に付けさせることと、基礎・基本の確実な定着を図るために、スキル学習の時間を確保し、系統的に基礎・基本の定着を図る。

平成16年度
確かな学力を育てる学習指導法の研究
< 仮説 >
目標に準拠した評価を通して一人一人の児童の学習状況を的確に把握し、学習形態、それに合わせた教材・教具、スキル学習など個に応じた指導の充実を図ることによって、[確かな学力] を育てることができるであろう。
～ を継続・深化

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

学力検査CRTの結果より
全国平均を上回っていた項目(同一児童を追って)
平成14年度 平成15年度
国語 4項目 10項目
算数 2項目 3項目
平成14年度より平成15年度の方が上回った項目(同一児童を追って)
国語 12項目
算数 12項目
このように、2年間学力向上に取り組んできて、テストにおける学力の面では、ある程度の上昇がみられた。

本校で児童につけたい学力： 学ぶことへのやる気・意欲 学びを支える基礎的・基本的な知識・技能 自ら課題を見付け、思考・判断し、解決していくとする力に対して、指導と評価の一体化を図る取組 学習形態の工夫 朝自習の取組などの手だてで学力の向上を図ってきた。その結果、学習意欲に関しては、全体的にやや上昇傾向にある。基礎・基本的は知識・技能においては、国語ではやや上昇傾向にあるが、算数では停滞している。思考・判断・問題解決力においては、やや上昇傾向にある。

また、学習形態の工夫においては、ほぼ本校における型は、固まってきたと考えられる。

2. 今後の課題

平成14年度・平成15年度においては、重点単位として設定した2単位を中心として研究を行ってきた。しかし、本当に学力の向上を図るためには、

常時活動における取組部分を増やしていく必要がある。

本年度においては、個々の児童に対しての手だての工夫はかなり行ってきたが、それは、教師と子どもの1対1の対応を中心としたものが多かった。来年度は、集団での学習の方法をもっと研究し、子ども同士による練り合いの場を増やしていきたい。

また、補完的な手だて・発展的な手だてにおいても、プリント学習中心にならないように気を付け、児童の練り合い、学び合いの活動を積極的に取り入れたい。

児童の学習の状況を判断する材料として、C R T観点別到達度学力検査を中心としてきたが、もっと細かく児童を観ていく必要がある。年度当初から観点を絞って継続的な調査を行わなければ、成果を正確に判断することができない。

また、理科においては、5・6年のみの調査としていたが、3年から調査を始め、本校の実態をもっと細かく把握したい。

学力等把握のための学校としての取組

児童の学習状況を客観的に捉えるために

C R T観点別到達度学力検査を平成14年度・平成15年度5月中旬と定期的に行い変化を把握するように努力している。実施内容は、国語・算数は、2～6年、理科は、5・6年において、昨年度の学習内容に対して調査を行った。

平成16年度においても、同様の内容で、5月中旬に検査を行いたいと考えている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会等開催実績

北九州市学力向上フロンティアスクール授業公開 平成14年9月26日(木)

福岡県・北九州市学力向上フロンティアスクール実践交流会

平成15年6月24日(火)

福岡県・北九州市学力向上フロンティアスクール授業公開・意見交換会

第1回 平成15年10月14日(火)

第2回 平成15年10月22日(水)

第3回 平成15年10月27日(月)

第4回 平成15年10月17日(月)

研究会開催予定

福岡県・北九州市学力向上フロンティアスクール授業公開・意見交換会

平成16年7月1日(木)

福岡県・北九州市学力向上フロンティアスクール実践交流会

平成16年10月1日(金)

その他

・次期本校HP更新時においては、平成15年度の実践の成果と課題を掲載する予定である。

・フロンティアティーチャーとしては、他校の実践交流会等に積極的に参加し、本校の実践を基に意見交換を行う。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無